

寿楽院寺報

〒369-1245 大里郡花園町荒川983

高野山真言宗 荒巖 寿楽院

住職 高橋 敬行

電話 048-584-0302

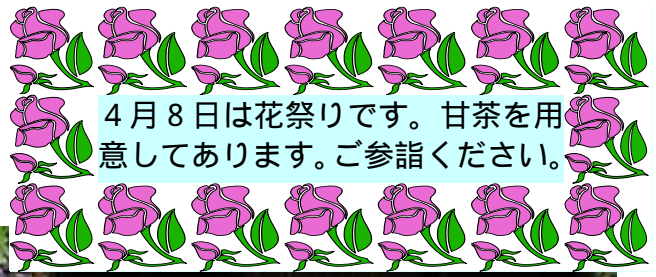
即身成仏について！

真言宗の法(教え)とは、弘法大師(空海)によって体系化された教学である。

真言宗の教えの中心は、即身成仏ということである。それは法身大日如来を私たち自身のなかに確認することであって、尋常でない超能力を獲得するというのではない。

私たちの生活活動には三つの領域がある。身体の行い、にする言葉、心の働き(身 意の三業)がそれである。大日如来にも同じく身口意三つの領域がある。この仏の三つの活動領域を三密というが、一般の仏教では悩みや苦しみのもと、煩惱のもとと見られる私たちの三業も、真言宗においては根源的には仏の三密と一体のものとし、私たちの三業をも三密と呼ぶ。煩惱でさえ、本来は清浄なものと見るのが真言宗の教えである。

さて、このように仏と一体になるためにはどうすればよいのか。大日如来の三密活動は、人びとの救済という大きな目的に向けられているのであるから、私たちの生活の目的もそれに応えてゆくものでなければならぬ。そのためには、まず菩提心(悟りを求める心)をおこすことが必要であり、正しい生活の基本である十善戒を実践することが大切である。十善戒とは次の十項目をいう。生命あるものを殺さない。他人のものを盗まない。よこしまな男女関係をもたない。うそをつかない。たわごとをいわない。悪をいわない。二枚舌をつかわない。むさぼりの心をおこさない。おこらない。まちがった考えをもたない。これは倫理道徳的な行動であり、かつ宗教的な実践でもある。それらを基本として真言密教の実践法へと深めてゆくことが必要であり、手に仏の誓願を象徴する印を結び、に仏の心中よりほとばしり出た真言をとえ、心は仏の悟りの境地にとどめることで、「仏日の影、衆生の心水に現するを加といい、行者の心水よく仏日を感じるを」といわれるように、如来の大慈悲と衆生の信心とが加持感応することによって、私たちの心や行い、言葉が浄



4月8日は花祭りです。甘茶を用意してあります。ご参詣ください。

化され、やがて仏と私とが一体となった生活ができるということこそ「即身成仏」ということにはほかならないのである。このことは、同時に私たちが本来仏と異なるものではないということの確認でもあるといえる。

真言宗小事典より



空海の言葉 シリーズ

大自然の懐に抱かれて、生きている

かんすい いっぱいあした

潤 水一杯朝に命を支え、

さんかいちいん

山霞一咽夕に神を谷う。

けんらふいそ

懸羅細草、体を覆うに堪えたり。

けいよつさんび

荊葉杉皮、これ我が茵なり。

けいよつさんび

「朝には清らかな谷川の水を一杯飲んで生命をささえ、夕には山にかかった美しい霞を大きく一飲みして気力を養います。つたかすらを綴って衣にすれば、十分に身体を覆ってくれますし、いばらの葉っぱや杉の皮を敷いて寝床にします。」

このように大自然を友として悠然と暮らしていると、都の生活を忘れてしまうほど、私は山中の暮らしが好きなのです。山に魅せられたお大師様の俗界を離れた修行僧としてのしたたかな姿が、彷彿として浮かんでくるようです。

現在では、電気やガスが止まったら、特に都会の団地生活では食事の準備にもことかいて大騒ぎとなることでありまして、便利で結構づくめの文化生活は反面こういう脆弱な一面をもっている。それに反して文化程度の低い未開人は、火は木をこすっておこす方法を知っているし、食べられる食糧の見分け方、その料理の仕方、住まいの作り方等々、生きていくうえに必要な知識と技術を子供の時から教えこまれて受けつぎ、電気もガスもないけれども平気で生きている。

大自然の偉大な力を忘れて文化生活に溺れてはならないし、大自然こそ私たちの生活の基盤で、大自然の懐に抱かれて実は私たちは生きているのである。

空海百話より

